

みんなで考える 精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム

精神障害のある人が、地域での豊かな暮らしを継続するための希望や必要な環境、それぞれの立場で実践したいこと、などワークショップにご参加いただいた皆さまの声をまとめました。

住まい

地域の生活において、居住課題がまずあると思います。不動産業者へお話ししても大家さんの理解が、得られないことがあると聞きます。どこに相談したらよいのか？の情報がもっとオープンになればと思います。

安心して暮らせる住居がありません。また、自立して生活するための生活体験、練習の場がほとんどありません。

今は、中学生年代と高校生年代とで支援の中心となる機関が異なりますが、その壁がもう少し緩くなり、早い時期から成人後の生活設計を考えていけるようになるといいと思いました。

どのライフステージや分野においても精神科領域の問題は無関係ではないと思います。ただ、それでもなかなか精神分野の取組みが他と比べて遅れてしまうのは、やはり、精神疾患や精神障害は「他人事」と思っている気持ちがあるからだと思います。そうした点への働きかけを考えると、やはり「ピア」の力は欠かせないと思うのですが、ピア活動が出来る人材や活動への支援・・・マンパワー等考えるとすごく難しいです・・・

統合失調症である当事者の親です。わが子は、気軽に話せたり相談できる場所や相手が見つからず家に閉じこもりがちです。まずは、気軽に話せる人や場が欲しいと願っております。

居場所

当事者の居場所となるスペースがあったら良いのにと 생각합니다。



周囲の人の目が気になり、家庭の中で解決しようとしてしまいます。同じような課題を持つ人同士のコミュニティがあり、それがさらに地域で広がっていけるような環境になればいいと思います。

仕事

地域で安心して暮らすためには、社会との関わり(就労の場)を地域が提供出来ることも必要となってくるかと思っています。(キャリアコンサルタント、産業カウンセラー)



精神障害に対しての正しい理解が進み、地域で安心して暮らせるようになるには、まだまだ努力と工夫が要るようですが、地域の市民センター、公民館も巻き込んで、よろず相談所的にも充実していただいて、地域住民が暮らしやすくなるのが精神障害のある人にも良いと思います。地域の意識改革を進められたらとやはり思います。ふれあいの様な協議の場が大切だと思いました。

私も精神障害のある当事者であります。病気について学ぶ機会がなかったこと、どのような社会資源があるのか知らなかったことで、病状は進み、発覚は遅れ、支援につながるまでに時間がかかりました。インクルーシブ教育をもっと浸透させられたらなと思います。(グループホーム生活支援員、ピアスタッフ)

広く社会に・・・

自治体のにも包括の議論がどのようにされているのか、現場まで聞こえてきません。同じような関係団体や専門団体だけで話あっているように感じます。広がりがありません。しかし支援の現場では連絡取り合う連携は進んでると思います。顔のみえる連携を重ねて行くことが大切だと考えています。(訪問看護ステーション・PSW)

Will 思い

「世間に理解してもらおう」「早めの支援」ということを考えると、もっと一般向けなメンタルヘルスの啓発も今後行っていきたいと思いました。(都道府県の精神保健福祉センター職員)

